

第 22 回番組審議会 審議議事録

1. 開催日 平成 30 年 6 月 26 日 (火) 18 時～19 時
2. 開催場所 タス 3F さくら (山形県長井市館町北 6-27)
3. 委員出席 委員総数 : 6 名
欠席委員 : 1 名
出席委員 : 番組審議会委員会会長 勝見英一郎
番組審議会委員 塚田 弘一
番組審議会委員 寺嶋 宏武
番組審議会委員 谷澤 秀一
番組審議会委員 村田 裕子
放送事業者側出席 黒澤 栄 (代表取締役)
高石 仁光

4. 議題

- (1) 代表者挨拶
- (2) 御審議
- (3) その他

5. 議事の概要

- (1) 開会
- (2) 御審議

①番組の適正について

対象番組 : 「生放送内でのニュース読み上げ」について

番組名 : おらんだのニュース

日 時 : 月曜から金曜の生放送内

けさらじ 7 時 5 分～、8 時～・ひるらじ 12 時 5 分～・ゆうらじ 18 時～

②質疑応答

③その他

④閉会

6. 審議内容

①質疑応答

(寺嶋委員)

- ・努力している成果が表れている。以前に比べたら大変上手になり、聴きやすくなった。
- ・一部にイントネーションやアクセントが気になる人もいる。
- ・ニュースは、個性を出さずに淡々と読み上げた方が聴きやすい。

(谷澤委員)

- ・ニュースの内容に合わせて、多少緩急があった方が、メリハリがあって聴きやすい。
- ・ニュースの読み上げは、声、活舌、抑揚、イントネーション、心構えが必要になってくる。研修を通して、更に勉強して行ってほしい。

(村田委員)

- ・活字にすると同じ文章でも、読む人によって印象が変わってくる。
- ・ニュースは、活舌や抑揚の良し悪し、息継ぎ、リズムなどで、聴きやすいか聴きにくいかがハッキリわかる。上手な人だとスッと耳に入って理解しやすい。
- ・某アナウンサーは、朝の番組やニュースでは、聴く人が元気になるようワントーン上げていると言っていた。(聴いている人を想定して) そういうことを心掛けても良いのでは。

(塚田委員)

- ・名称の区切りが不自然だと思ったところが何点かあった。一つのセンテンス(一続きの文)は、切らずに一気に読み上げてほしい。
- ・何回も間違える人もあった。事前に下読みをしていると思うが、間違いが多いと気になり、ニュースの内容が入ってこない。

(勝見会長)

- ・原稿の棒読みになっている人もいる。リスナーが聴いていることを意識し、伝えることを大事にしてほしい。
- ・ニュースは、限られた時間で伝えなければならないので難しいのかなと感じた。パーソナリティの話し方のクセが気になったり、間違いが気になったりすると聴く集中力が途切れて内容が入ってこなくなる。
- ・研修の成果は、十分に出ていると思う。今後もいろいろな形で研修を進めてほしい。

(黒澤)

- ・好みもあるが、パーソナリティによって、聴きやすい、聴きにくいはあると思う。

(高石)

- ・クオリティを一定にするよう今後もパーソナリティの研修を続けていきたい。

③その他

(寺嶋委員)

- ・7時は「シチ時」と読むのか「ナナ時」と読むのか。NHKは「シチ時」と言っている。

(高石)

- ・「イチ」と「シチ」の聴き間違いを防ぐため「ナナ」で統一しているが、場面によって使い分けをした方が良いのか、確認したい。

7. 審議会の答申又は意見に対してとった措置の内容及び年月日

- ・特になし

8. 審議会の意見の概要の公表

公表方法：自社ホームページへの掲載

公表内容：本議事録

公表年月日：平成30年7月2日（月）

9. その他の事項

次回の放送番組審議会日程について

- ・平成30年7月は休会とする。
- ・第23回放送番組審議会 平成30年8月20日（月）
開場 未定